



女もすなる都市計画 開催報告！ 8月9日、19日開催 「魅力的な都市を調べる」 第七回 in 静岡 / 浜松

先進事例を調べて感じる不思議！、わが町だって、同じような政策や事業を、頑張ってやってきたし、やっている。
 効果が出て評価される都市と、一体、どこが違うのだろう？

◆ビルバオと直島 国も規模も違う都市。共通点は重厚長大型産業都市から、アート・文化の都市への転換

ビルバオ(スペイン)、直島(香川県)、この2都市は、近年、アートをテーマに、鉱工業中心の都市から、世界的に注目される文化都市への転換が図られ、再生の道歩んでいる。

ビルバオは、都市再生の再開発事業の目玉としてグッゲンハイム美術館を誘致。フランク・オー・ゲイリー設計の自由で複雑なデザインの建物が、世界的に大きな話題となり多くの観光客を集めている。その数、開館5年間で515万人、そしてその45%が海外からだという。グッゲンハイム美術館は、市内各所で進められているの都市再生事業のシンボル施設として周辺エリアの価値を高める役割を果たすと共に、ビルバオの文化都市への転換を牽引する施設となっている。総チタンの外装のこの建物、建設費が気になるが、日本円で、約100億円だという。ちなみに東静岡駅周辺の開発の牽引役を期待されたグランシップ(コンベンション・アーツセンター)は約450億円だと聞く。物価の違いはあるのだろうが、シンボリックな施設の効果的な活かし方について考えさせられる。



↑グッゲンハイム美術館

ちょっと注目！

◆なんだか違うぞ！三鷹市の協働まちづくり

研究会メンバーからのリクエストで、協働のまちづくりの先進地である三鷹市について調べた。

まずは、HPをのぞいてみると、トップページに「みんなで参加」の文字が、さっそくのぞいてみると、市の主催事業以外の市民グループや団体などが主催するイベントが、ずら〜っと一覧で紹介されていてわかりやすい！市のHPが市民活動のポータルサイトの役割を担っている。「あれ、静岡は？、浜松は？」と確認してみると

「ないな〜・・・」の声と共に、現状の市民活動情報の受発信の難しさを指摘する声が挙がる。神は細部に宿る。三鷹は何かが違う！

他にも、ポキネット(みたか地域SNS)、まちづくり総合研究所、三鷹ネットワーク大学、株式会社まちづくり三鷹等々、なんだか、興味をひく組織や仕組みが、次々目に入ってくる。重層的で、多面的な協働、市民自治の取り組みが展開されていることが伺える。

三鷹市の特徴は、協働の基盤となる住民の自治意識が高いことだと、よく耳にする。平成11年度から始まった総合計画基本構想・第3次基本計画の策定においては、「みたか市民プラン21会議」に375名もの市民が参加し、市が素案を作る前の段階「白紙からの市民参加」を行われた。そこでの議論から、自治基本条例の制定が提案され、実際に平成17年に実現している。こうした、三鷹市民の自治意識の高さはどこからくるのだろうか？歴史を遡ると、1980年代のコミュニティ政策が興味深い。東京都内にあって人口が急増する三鷹市においてコミュニティの再構築は重要な課題となっていた。そこで、コミュニティの核となるコミュニティーセンターの建設に際し、施設整備だけでなく、住民による運営という本質的なコミュニティの核づくりを目指し、住民協議会が組織された。そして施設内容の検討に際し、住民による徹底した話し合いを行うことで、

香川県直島町は、直島本島と27の島々で構成されている人口約3,000人の小さな島である。日本有数の観光・文化都市の1つとして海外からも人気が高く、ピーク時は約60万人の観光客が訪れる。直島はかつて精錬所があり、



ベネッセハウス

最盛期には「県内一豊かな自治体」と呼ばれていたが産業が斜陽化すると、島を離れる人が増加した。転機はベネッセコーポレーションのCSR(企業の社会貢献活動)。アートプロジェクトとしてホテル・美術館が併設されたベネッセハウスが安藤忠雄氏設計により完成すると、自然とアートが溶け込む独自の世界観で、国内のみならず世界各国から人を呼び寄せた。やがて、街中にオブジェを散りばめた家プロジェクト(アーティストが家そのものを作品化する)などにより、アートが島全体に広がる中で、変わりゆく島に当初戸惑いがあった島民も、来島者の増加やアートプロジェクトが一過性に終わらないまちづくりと確信したことで、様々な活動・協力を始めた。例えば本村地区のれんプロジェクトには、現在約50軒が協力している。また、有志による観光ボランティア組織が設立されるなど、まちぐるみの取り組みへの広がりを見せた。現代アートを共通テーマ



草間彌生「かぼちゃ」

にした、企業、アーティスト、住民、行政の、理想的なコラボの姿がそこにある。重厚長大型の産業中心の都市から転換を模索し続ける身近な都市を思い浮かべながら、どこが違うのか？研究会メンバーはそれぞれに、思いを馳せた。

自主運営の基盤が固まっていったという。その当時、同じように、コミュニティ施策に取り組んだ自治体の多くが、コミュニティセンターという箱物づくりに留まっていたことと比べ、その先進性に驚く。単に形を追うのではなく手間暇かけながらも、本質的な目標を達成するためのプロセスがとられている。

この住民協議会組織が、その後のコミュニティ・カルテづくりや、まちづくりプランの策定などで重要な役割を果たしていったという。それらは、地域別のきめ細かなまちづくりの推進に不可欠な取組である。住民の意識、自治組織等、基盤の力を感じる。

【所感】 参加者から、先進事例都市の取組みをみると、静岡市・浜松市でも、同様なことは行われており、「似たような事業、施策があるのだが、なんだか、似て非なるものに感じる。」との声があがる。事業が始まるとそれを実施する事が目的化しがちである。時にはマニュアル通りに遂行することが大事とされることも……。本質を見失うことなく物事を進める力が、多様な利害、価値観が錯綜するまちづくりだからこそ重要なのだと実感する。そして、それを、牽引するのは誰なのか？

【報告】 事務局をお手伝いしている「原田橋に関する意見交換会」の第3回が7月29日に開催されました。その日、浜松市長の記者会見にて、新橋架橋ルートとしてB案を採用し検討をすすめていく方針であることが発表されました。B案は住民の多くが賛同している案です。これにより、意見交換会は一区切りが付き(注)、当NPOの役割も、無事終わることになりました。インフラの維持管理や官民連携に関心を寄せている当NPOとしては、中山間地域における“命の道”の意味を、住民の方から直接伺える経験は、今後の活動の大きな糧となるものでした。関係者の皆様へ感謝申し上げます。

注) 浜松市から、「情報提供や住民の方とのコミュニケーションは、今後も、形を変え継続していくこととしている」との表明が併せて行われました。

参考：<http://www.haradabashi.com/>

まちサポF U J I 理事コラム⑧ 理事 下川澄雄

日本大学理工学部 社会工学科教授
専門分野：交通工学 道路計画
国土計画 地域計画



いろいろな講演会等で、「日本の道路は、これまでの投資によって一定程度のストックが確保されてきた。これからはストックされた道路を無駄なく上手に使っていく必要がある。」といった話を耳にすることがあります。確かにその通りだと思います。ただし、ここで注意すべきは、これは“質”ではなく“量”としての確保ということです。

戦後の劣悪な道路環境の中で、道路舗装と車同士がすれ違える幅員の確保が命題とされ、その後のモータリゼーションの進展とともに、道路延長や車線数の確保が求められてきました。これは量の確保そのものです。

一方で、高速交通サービスの全国的均てんなどを目的に高規格幹線道路(14,000km)の計画が第四次全国総合開発計画において策定され、その整備延長は平成27年度末に11,000km余りに達する見込みです。しかし、これも高速道路の延長を一定程度確保するという量の確保にすぎません。

なぜかという、日本では、都市・拠点間をどの程度の時間サービスで連絡すべきか、このような交通が担う本質的な問題を必ずしも十分に議論せずに今日に至っているからです。高速道路が整備さ

れても、都市間が求める所要時間を保証したことにはなりません。事実、ある都市まで行くのに、高速道路は1時間だったのに、高速道路を下りてから信号が多くて1時間かかったなんて話もよくあります。つまり、道路を無駄なく上手に使っていくためには、今ある道路の質を向上させるいろいろな工夫・はたらきかけが不可欠なのです。特に重要な点は、わが国の一般道路の多くが旅行速度40km/h以下であり、100km/h程度で走行できる高速道路と60km/hの差をもった2つの階層に分化されていることです。すなわち、日本では、幹線道路として機能している道路が全然足りないのです。このことが、まち中の道を抜け道として利用し、通学路などに侵入して危険な状況をつくり出す原因ともなっています。

平成26年7月に公表された「国土のグランドデザイン2050」では、超高齢化・人口減少下の中で、日常生活や都市機能の維持を図るべく、小さな拠点から大都市に至るまで、「コンパクト」+「ネットワーク」により、新たな活力と重層的な国土形成を目指そうとしています。そのためには、都市間を連絡するサービス目標を明らかにし、これを確実に達成していく必要があります。まさしく、道路ネットワークの体質改善なくして、これは実現しないのです。

〔プロフィール〕

日本大学大学院理工学研究科修了後、(財)国土技術研究センター、高速道路など全国の幹線ネットワーク計画の策定に関与。黎明期よりITSの導入を推進し、多くのリクワイアメントを策定。静岡県庁在籍時は、災害時の緊急輸送路計画など重要課題を担当。現在は、道路の新たな使い方と地域づくりなどについて模索中。【メッセージ】地域を主張できる交通まちづくり

今後の活動情報

◆ 講演会 ◆

多業種多分野の著名な方々をお招きし、それぞれの立場・視点からまちづくり・むらづくりの課題、将来像を語って頂く講演会・交流会を開催しております。

日時	テーマ・内容	場所
2015年 11月5日開催	第六回 防災・減災～現場力を活かす～	三島市
2016年 1,2月予定	第七回 (仮) スポーツと地域の元気	静岡市

○各回資料代：非会員 500 円/人 (税込)、正会員無料。

◆ 勉強会 ◆

女もすなる都市計画 ※日程は変更になる場合があります。

静岡会場：毎月第2水曜日 18時30分～ 次回9月9日(水)
浜松会場：毎月第3水曜日 18時30分～ 次回9月24日(木)

○各回費用：1000円程度(お茶・軽食代含)。各回のみ参加も可能。

◆ 3Dデータを使った交通情報提供についての意見交換会

開催日 9月29日(火) 午前10:00～ 場所：浜松事務所
当NPOでは「公共交通軸周辺の活性化に寄与する情報提供について」をテーマに、浜松市まちづくり公社まちづくり活動助成を受け調査研究事業に取り組んでいます。その一環で、3Dデータを使った交通情報提供についての意見交換会を、市民や商業者の方に参画いただき開催いたします。

◇ お申込み方法 ◇

本誌右下の連絡先まで、FAXまたはE-mailにて、①ご参加希望の講演会または勉強会の名称・開催日・勉強会は会場、②お名前、③ご連絡先の住所・電話番号・FAX番号・E-mail、④ご所属、⑤交流会への参加有無をご連絡ください。費用は当日受付にてお支払ください。
※最新情報は、当NPOのHP (<http://npofuji.jp>) ご参照ください。

会員募集

当NPOの趣旨にご賛同いただき、会員になってくださる方を募集しております。まちづくり・むらづくりに関心のある、支援・参加したい方々をお待ちしております。正会員には講演会レポートや会報「FUJI通信」の送付、当NPO主催の講演会等への参加費の割引/無料等の特典がございます。

○会費：

入会金) 正会員 3,000円 賛助会員 1,000円
年会費) 正会員 6,000円/一口 賛助会員 1,000円/一口

○振込先：

静岡銀行清水中央支店(店番144) 普通 0950668
特定非営利活動法人まちづくりサポーターFUJI
理事 川口宗敏
トクヒ) マチツクリサポーターフジ

○お申込み：

上記振込先にお振込み後、下記連絡先まで、FAXまたは、E-mailにて、①お名前、②ご連絡先の住所・電話番号・FAX番号・E-mail、③ご所属、④お振込み口数をご連絡ください。ご連絡先は、お勤め先でもご自宅でも結構です。後日、領収書と会員番号をお送りします。



連絡先



NPO法人まちづくりサポーターFUJI 事務局
電話 : 053-525-8511 FAX : 053-533-3203
E-mail : info@npofuji.jp